

二天門（重要文化財）

日光山最大の門で、家光の墓の参道を守る三門のうちの二番目の門である。その名は「二天王の門」を意味する。門の正面には四天王の内、二体立っている。時国天（左）は東の守護神であり、日本の守護神で増長天（右）は南の守護神であり、成長と繁栄の神である。

門の奥の左右には、風神と雷神が立っている。屋根の湾曲した切妻の下には「大猷院」と書かれたプレートがあります。書は後水尾天皇（1596～1680）のものである。

夜叉門（重要文化財）

家光の墓の参道を守る3つの門のうち、最後の門で、門の中には四体の夜叉が各門に一体ずつ立っている。夜叉とは、病気から身を守る神「青面金剛」のお供である。

牡丹の花がたくさん彫られていることから、牡丹門とも呼ばれている。牡丹の中には獅子の彫刻があるが、これは昔の話の獅子の弱点は腹の中に虫が住んでいたことに由来している。牡丹から降った露が虫を殺してくれるので、獅子は牡丹の間に眠ることになったと言われている。